

I 全日制高校について

		A.外国人生徒	B.中国・サハラ以南の国生徒	C.海外帰国生徒
1.2022年度中について、当該項目の生徒の在籍の有無 ※有・無・把握せずから1つ選択		有	把握せず	有
2-1.2023年度の一般入試において、当該項目の生徒の受けられる入試特別措置の有無 ※○△×から1つ選択 △(要項に明記されていないが実質受けられる、等)の場合は「2-1の備考」に明記		○	○	○
2-1の名称		特別措置	特別措置	特別措置
2-1の備考 2-1が△の場合は明記 国籍要件に条件がある場合は明記				
2-2.滞日年数制限		なし	なし	なし
2-3.措置の内容		時間延長、漢字にルビ、辞書の持込など具体的な措置は受検者の状況を聞き、各校と教育委員会が協議の上、各高等学校長が決定する	時間延長、漢字にルビ、辞書の持込など具体的な措置は受検者の状況を聞き、各校と教育委員会が協議の上、各高等学校長が決定する	時間延長、漢字にルビ、辞書の持込など具体的な措置は受検者の状況を聞き、各校と教育委員会が協議の上、各高等学校長が決定する
2-4.2022年度の入試において、当該の措置で、日本語指導が必要な生徒が受検(受験)しているか ※有・無・把握せずから1つ選択		把握せず	把握せず	把握せず
3-1.2023年度の入試において、当該項目の生徒を対象とした特別入学枠の有無 ※○△×から1つ選択 △(要項に明記されていないが実質対象となる、等)の場合は「3-1の備考」に明記		×	×	×
3-1の名称				
3-1の備考 3-1が△の場合は明記 国籍要件に条件がある場合は明記				
3-2.滞日年数制限				
3-3.入学枠のある学校数/全学校数		0校/全校 32校	0校/全校 32校	0校/全校 32校
3-4.学校名				
3-5.定員 ※該当する方のみ記入	①定員内(枠内)			
	②定員外(枠外)			
3-6.特別枠の定員数は明確となっており、かつその数まで合格を認めているか (定員数内で不合格を出さない内規等があるか) ※○×から1つ選択				
3-7.試験内容				
3-8.2022年度の入試において、当該の枠で、日本語指導が必要な生徒が受検(受験)しているか ※有・無・把握せずから1つ選択				
その他補足事項 ※措置や枠がある地域については、2022年度の入試別の受験者数・合格者数、その他事項などを記入				

II 定時制高校について

	D.外国人生徒	E.中国・サハラ以南の国生徒	F.海外帰国生徒
1.2022年度中について、当該項目の生徒の在籍の有無 ※有・無・把握せずから1つ選択	有	把握せず	把握せず
2-1.2023年度の一般入試において、当該項目の生徒の受けられる入試特別措置の有無 ※○△×から1つ選択 △(要項に明記されていないが実質受けられる、等)の場合は「2-1の備考」に明記	○	○	○
2-1の名称	特別措置	特別措置	特別措置
2-1の備考 2-1が△の場合は明記 国籍要件に条件がある場合は明記			
2-2.滞日年数制限	なし	なし	なし
2-3.措置の内容	時間延長、漢字にルビ、辞書の持込など具体的な措置は受検者の状況を聞き、各校と教育委員会が協議の上、各高等学校長が決定する	時間延長、漢字にルビ、辞書の持込など具体的な措置は受検者の状況を聞き、各校と教育委員会が協議の上、各高等学校長が決定する	時間延長、漢字にルビ、辞書の持込など具体的な措置は受検者の状況を聞き、各校と教育委員会が協議の上、各高等学校長が決定する
2-4.2022年度の入試において、当該の措置で、日本語指導が必要な生徒が受検(受験)しているか ※有・無・把握せずから1つ選択	有	把握せず	把握せず
3-1.2023年度の入試において、当該項目の生徒を対象とした特別入学枠の有無 ※○△×から1つ選択 △(要項に明記されていないが実質対象となる、等)の場合は「3-1の備考」に明記	×	×	×
3-1の名称			
3-1の備考 3-1が△の場合は明記 国籍要件に条件がある場合は明記			
3-2.滞日年数制限			
3-3.入学枠のある学校数/全学校数	0校/全校 6校	0校/全校 6校	0校/全校 6校
3-4.学校名			
3-5.定員 ※該当する方のみ記入	①定員内(枠内)		
	②定員外(枠外)		
3-6.特別枠の定員数は明確となっており、かつその数まで合格を認めているか (定員数内で不合格を出さない内規等があるか) ※○×から1つ選択			
3-7.試験内容			
3-8.2022年度の入試において、当該の枠で、日本語指導が必要な生徒が受検(受験)しているか ※有・無・把握せずから1つ選択			
その他補足事項 ※措置や枠がある地域については、2022年度の入試別の受験者数・合格者数、その他事項などを記入	1/1(合格者/受検者)		

Ⅲ 高校入学後の状況

1.日本語指導が必要な生徒に対して、入学後の日本語や教科の支援(補習等)にかかわる当該自治体の施策の有無 ※有・無から1つ選択	有		
2.有の場合、その施策の具体的な内容 ※該当する項目にチェック	<input type="checkbox"/>	A.教育課程に位置づけられた日本語授業(学校設定科目や個別対応授業など単位として認定されるもの)の実施	
	<input type="checkbox"/>	B.教科学習において個別対応や習熟度別の授業を実施	
	<input type="checkbox"/>	C.母語(継承語)保持のための授業の実施	
	<input type="checkbox"/>	D.担当教員の加配	
	<input checked="" type="checkbox"/>	E.日本語の授業などの講師や支援者の雇用	
	<input type="checkbox"/>	F.母語(継承語)の支援のための講師や支援者の雇用	
	<input type="checkbox"/>	G.その他外部支援者(コーディネーターなど)の雇用	
	その他の施策	年間31回を上限として、日本語支援を希望する生徒に対して県が日本語講師を派遣している。(有償ボランティア)	
	上記に該当する実施校の校数等	2校(全日制1校、定時制1校)で実施(4名の生徒対象)	
補足事項	施策の名称 「帰国・外国人児童生徒トータルサポート事業」による日本語講師の派遣		
3.自治体の施策ではないが、各学校で個別に実施していることがあれば記入			
4.2022年度の入試において、海外で中学相当(学校教育における9年の課程)を修了し、来日後直接高校受検(受験)した者の有無 ※有・無・把握せずから1つ選択、有りの場合はその人数も記入	無		
5.2021年度中に、直接来日後による編入学者の有無 ※有・無・把握せずから1つ選択、有りの場合は、その人数も記入	無		

IV日本国内にある外国学校からの入学について		
	↓記入欄	備考
1-1.各種学校の認可を得た外国学校の中等部の卒業生について、高校受験(受験)者資格を認めているか否か ただし、中卒認定試験の合格を以て認めている場合は除く。 ※認めているは○印、認めていないは×印のいずれかで記入し、認めていない場合はその理由を備考に記入。検討中あるいは未決定の場合は△を記入し、備考に明記	○	
1-2. 1-1で認めている場合 ※①～④からいずれかを選択 ①外国学校中等部の卒業生には、そのまま他の生徒と同様に高校入学選抜の受験(受験)を認めている(外国学校の指定その他の条件を付している場合はその条件を記載) ②学校教育法施行規則第95条第5項に定める「中学校を卒業したものと同等以上の学力」があるかどうかの確認を、中卒認定試験・外国人特別入試等とは別途、高校入試に先立って行っている。 ③上記②を実施しておらず、外国人特別入試等を実施し、この合格をもって学校教育法施行規則第95条第5項に定める「中学校を卒業したものと同等以上の学力」があるかどうかの確認としている。 ④その他(方法を備考欄に記入)	④	学校教育法施行規則第95条各号のいずれかに該当する場合、事前に入学資格確認を行い、要件を満たせば認めている。
2-1.各種学校ではないが、本国政府の認可を得た外国学校の中等部の卒業生について、高校受験(受験)者資格を認めているか否か ただし、中卒認定試験の合格を以て認めている場合は除く。 ※認めているは○印、認めていないは×印のいずれかで記入し、認めていない場合はその理由を備考に記入。検討中あるいは未決定の場合は△を記入し、備考に明記	○	
2-2. 2-1で認めている場合 ※①～④からいずれかを選択 ①外国学校中等部の卒業生には、そのまま他の生徒と同様に高校入学選抜の受験(受験)を認めている(外国学校の指定その他の条件を付している場合はその条件を記載) ②学校教育法施行規則第95条第5項に定める「中学校を卒業したものと同等以上の学力」があるかどうかの確認を、中卒認定試験・外国人特別入試等とは別途、高校入試に先立って行っている。 ③上記②を実施しておらず、外国人特別入試等を実施し、この合格をもって学校教育法施行規則第95条第5項に定める「中学校を卒業したものと同等以上の学力」があるかどうかの確認としている。 ④その他(方法を備考欄に記入)	④	学校教育法施行規則第95条各号のいずれかに該当する場合、事前に入学資格確認を行い、要件を満たせば認めている。
3.上記のⅠⅡ特別措置と入学校での滞日年数制限について、日本国内にある外国学校の在籍期間は、日本での在学期間を含むか否か ※日本での滞在期間に含むは「含む」、滞在期間に含めないは「含めない」のいずれかで記入		特別措置において、滞日年数制限はない。
4.外国学校の中等部の卒業生について、2022年度入試において受験(受験)希望があったか ※あった場合「有」を記入、備考にその人数を記入。なかった場合は「無」を記入。把握していない場合は「把握せず」	無	

V 調査した人からのコメントや関係者の皆さんへお知らせ

※各地域を担当されている皆さんだから知っている地域情報を、皆さんの視点からご記入いただきたいです。

「他地域から皆さんが担当する地域に引越し予定をしている中2の外国人生徒とその保護者に伝えたい情報」という想定で、いずれも公開されている情報について、ご無理のない範囲で、ご記入ください。

<p>1.日本語指導が必要な生徒の状況について、支援者の立場から、高校受験(受験)や高校進学に困難なケースや高校入試及び入学後の支援に関して課題と感じていること 高校入試や高校入学後の支援に関して、教育委員会や高校に期待すること</p>	<p>私は、今年度初めてこの調査を担当することになった日本語講師です。一つの例をお話します。昨年度、私が小6後期～中3の間担当した中国人の女の子が昨年度全日制高校の高校入試を受けました。もっと早い時期に来日していれば日本語習得も早かったのですが、週1回1時間の日本語支援では十分でなく、中3になっても、生活言語は何とか大丈夫ですが、学習言語はまだまだという状況でした。模擬試験では、数学以外は悲惨な成績で、本人が頑張っても点数アップは難しかったです。せめて個人面接でいい印象をと考えて、中学校の先生方も私もいっぱい練習して入試に臨みました。彼女の中学校では、入試の特別措置の申請はしなかったようです。しかし、結果は無事合格。みんなで喜んだことでした。今、彼女は、友達もたくさんで、高校生活を楽しんでいるようです。高1の担任の先生によると、学習において厳しい事は変わりなく、科目の担当の先生方が個々の授業の中で特別に気をつけてくれているとのことでした。田舎の小さな高校だからできることだとありがたいと思います。中学まで受けていた「外国人サポート事業」年間31時間の講師による授業は、高校が申請を勧めたけれど、本人と両親が断ったとのこと。せっかくの支援なのに残念です。徳島県には、小中高ともにサポートが1年31時間では少ない児童生徒の皆さんがたくさんおられます。週1回では、学習者の話を聞いてから日本語の学習をするので、どうしても時間が足りなくなることが多いです。個の必要に応じて、時間数を100時間くらいまで増やせるようにしてもらえたらと思います。</p>
<p>2.日本語指導が必要な生徒を受け入れている私立高校の情報や課題など</p>	
<p>3.外国人生徒の高校入試などについて、近くで相談できるところ ※担当地域内の団体名やURLなどを記入ください</p>	
<p>4.多言語による関連情報 ※担当地域の自治体やNPOなどで公開されているものがあれば、URLなどを記入ください。</p>	
<p>5.その他 ※「こんな情報もあるよ!」ということ、メッセージや助言などがあれば、調査した人からの目線でぜひご記入ください。なお、そのままホームページには掲載致しません。</p>	<p>徳島県美波町には、多文化共生をめざす日本語ボランティアの会「美波多文化共生ネットワーク(ハーモニー)」があります。主な活動は、日本語教室の運営と多文化共生をめざすイベントの実施です。興味のある方は、HPをご覧ください。https://hearmony.amebaownd.com/</p>